

7. キャンプを終え



高木康隆(ヤス)・学生

「またドゥリシェニの村人の会いたい！」そんな単純な思いでキャンプをした。フリマしたり、カヌスしたり、ネパールキャンプのことを考える時間がとっても楽しかった。そして素敵なキャンパーに出会えて、みんなに助けられ、ホントにリーダーしてよかった。ありがとうございました。



藤戸真美(まみちゃん)・学生

人と人との交流がとっても良い形で出来るキャンプだったと思う。凄く秘境地なだけに、キャンパー同士の協力や思いやりがあったり村人の真の優しさに触れられたキャンプだったように思う。



森田祥(もりりん)・学生

今回のキャンプではキャンパー、村人達にお世話になり助けてもらいました。とても感謝していると同時に自分の未熟さを痛感しています。とにかく楽しかったです。ヤスさんは最高のリーダーです！僕も「漢」になれるように頑張ります！！



深谷さとみ(さとみ)・学生

今回のキャンプは、残念ながら体調を崩して途中帰国したさとみ。スラリとスタイルの良い美人さんです。ぜひ次の機会には村を訪れてほしいと思います。



インドラ・マハージャ(インドラ)

長渕バリのだみ声から発せられる、今風な日本語。あの軽さがたまらないぜ。妻子もちの男だが、いつまでも恋心は忘れないファンキーガイ!!!三度の飯よりストリップ好き、好奇心旺盛な36歳。



近原弘芳(ちかちゃん)・学生

初海外はタイ。だが男の心はネパールにあった。ネパールで見つけたもの、突き抜けるような空、視



菅原聡子(さとこ)・学生

多くの事を知り、日本で当たり前の物が無い、医療が届かない生活の大変さを感じる事ができた。そんな中で、本当に綺麗な笑顔の村人達。幸せについて考えさせられた。私達のできた事は少なかったが、村人に笑顔を与える事ができた今回のワークは成功であったように思う。



青柳絵里子(えりこ)・学生

ネパールでの生活はタイムスリッ
したみたいだった。だからこそ
「生きてる」って実感できた。

「生きる」ってああいうことなん



田中茜(たーなー)・学生

飾ることのできない村での生活は自分と、それから自分と世界の関係をシンプルに捉え



近藤剛史(つよぽん)・学生

今回のキャンプは病との闘いであった。受けない医療を受けない時に受けられない辛さを思い知った。しかし私のそれには期限があった。村人は日常的にその不安を抱えているだろう。

声もきつかけはなくなったと思

キャンプを終えて



舟橋 洸(ボブ)・学生

いなくなるととっても寂しくてつまらないよ。帰らないで、ずーっとここにいたらいんだ。何度も何度もそう言ってくれる村のお母さんがとっても印象に残っています。またあの第二の故郷に帰りたいな。。



河内 亜依(アイ)・学生

きれいな目と温かい笑顔をもた村人、村を囲む山や川や星空、デレーラマイロでランギチャンギなキャンパーたち・・・全部大好き！
ふるさとドゥリシェニーにいつか絶対帰



小関 太朗(YARAKASHI)・学生

ネパールの環境はいままで日本で体験したことない生活だった。でも、毎日充実



田部 亜紀子(あこ)・社会人

私にとって4回目のワークキャンプでした。最初に参加した時は最年少だったのが、今回はすっかりチームアダルト…でもそれは決して悪い意味ではなく、回を重ねるごとに成長できたと思っています。どう成長したかは次の機会に…。皆のおかげで本当に楽しかった！ダンネバード☆



後藤 隆之(ごっとな)・学生

なんつうかヤバイしょ！自然。村飯まちがないね。流れ☆とか見ちゃったり、子どものかわいい笑顔を見ちゃったり、ワークもがんばっちゃたり、モリモリな二週間だった。人とのつながり自分の存在、文化の違いなど感じる事が max



林 真美子(まみこ)・学生

印象的だったのは、人がどうやって生きているかがわかりやすいことだった。ゲストハウスを持っている人は、旅人の宿泊費で生き、タクシー運転手は運賃で生きている。村人は、農業をし家畜を育てて生きる。生が、とてもシンプルだった。



鈴木 美和子(みい)・学生

ずっと憧れ続けていたネパール。行くことができて最高に嬉しかった！こんなにもゆったり過ごせる場所が地球上にあったなんて…そんな空気を創っている自然や人々はとってもステキ♪そして一緒にその空間を体験した仲間たちもとってもステキな人たちでした♪



吉田 亮輔(RSK, たばこ)・社会人

ヤスがリーダーをやるという理由で参加を決めたけど、このキャンプをてたくさんの人と出会い、共有すること



ロス・現地ガイド

日本語ウマイ、気配り上手、おもしろさまで兼ね備えたナイスガイ 毎朝ひげをそり残しなくキレイに剃っちゃうのがシブシブMAXだ！通訳としてだけでなく、時にはアドバイスも。「かゆいところに手が届く」そんな男だ！！…coming soon



ラム

日本の男はこの名前からはきっとあの女の子を想像するだろう。しかしラムは紛れもない男だから要注意だ。けれどガツカリするにはまだ早い。「みなさんにおやすみ」など軽く間違えた日本語で JAPAN の YOUNG の心を掴みっぱなしな男だ。Don't miss it!!

8. キャンプまでの道

Road to Nepal 2007

- ・ 4月 キャンプ決定だっちゃ！！

キャンプリーダーによってネパキャン実行決定の合図が出される。

- ・ 5月 身近な人に声をかけつつ準備が進む。バジさんの息子と連絡をとる。

- ・ 6月 バジさんの講演会

OKバジさんの日本帰国に合わせて講演会を企画。

- ・ 7月 バジさんとキャンプの話し合い

- ・ 9月 キャンパー募集！！説明会

- ・ 10月 フリマ&説明会

- ・ 11月 カヌスの会～序章～

- ・ 12月 キャンパー決定

F I W C 年末総会

- ・ 1月 ミーティング

ネパール語講座配信サービス始まる

- ・ 2月 カヌスの会～最終章～

キャンパー顔合わせ

活潑潑地で出発

- ・ 3月 キャンプ開始

満身創痍で帰国



9. 大人のいない村

ネパールの山奥の村に、大人はほとんどいない。

見かけるのは子どもと女性、老人ばかりだ。

それはなぜか。

それは、皆遠くの町へ出稼ぎに行っているからである。さらに言えば、出稼ぎにいかねば家庭を支えることができない、つまりは生きていくことができないのである。

ネパールの土壌は痩せている。

作物はジャガイモ・トウモロコシ・カリフラワーなどばかり。

村人がどれだけ働いても、それでまかなうことができるのはたった4ヶ月分の生活にすぎない。

生きていくために彼らは別の土地に暮らしている。

しかし、それでも彼らの生活は貧しい。

そんな彼らの生活を支えるためにファンドというものが存在する。団体や個人などの規模で元金を提供し、そこから発生する利子で生活を充実させるのである。ファンドの使用法は元金提供者の意図にもよるが、村に一任した場合に最も良く機能すると言われる。

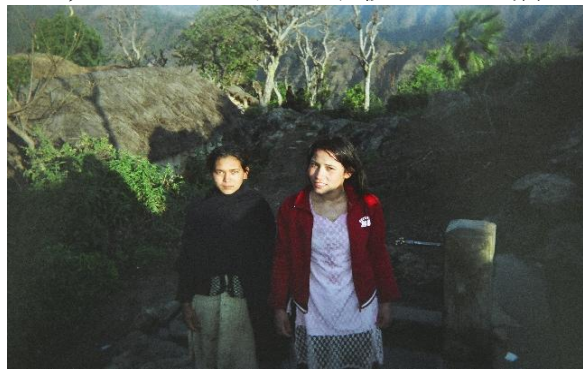
我々も今回ファンドに資金を提供することを決断した。

生きることと働くこととのつながりが我々とは比べものにならないほど明確な彼ら。

今、この村でとびきりの笑顔を見せ、無邪気に遊んでいる子供たち。

この子供たちもいつかは村のために、家族のために、村を出るだろう。

我々のファンドがどれだけ彼らの生活を活性化させてくれるだろうか。



『F I W Cの様々な国のキャンプに参加して』

ジープに揺られ、川を越え、まともな山道とは呼べない急な斜面をバックパックを背負い、日本から約三日間かけて着いたキャンプ地ドゥリシェニー村。日本も昔はこんな感じだったのだろうかというのが最初の印象でした。

ネパールキャンプは、今まで私が参加した（フィリピン、中国）中でも一番、現代の日本とは離れた遠い暮らしをしている村でのキャンプでした。お店や電気は全くなく、また村によっては水汲みに遠くまで行かなくてはいけないというのが当たり前でした。（ちなみに、お風呂に入らなかった日数もダントツ1位です）電気も水道もあって当たり前、用を足す時は水洗トイレとトイレトペーパーの組み合わせ、そんな便利な生活に慣れている日本人にとって、村の生活は昔にタイムスリップしたみたいでした。そんな村の生活は大変ではあるけれど、不思議と体は気持ち良く感じました。

村人はみんな優しい目をしていて、私たちの訪れを本当に喜んでくれていました。ワークを一緒にしながら、ご飯を一緒に食べながら、村人は本当に私たちの訪問を心から喜んでくれていたんだということを感じました。そして、村人が私たちのためにしてくれた事というのがたくさんあったように思います。

また、このキャンプではバジさんと幾日かを村で過ごし、色々なお話を聞いたことが、とても良かったと思います。私たちだけで考える支援ではなく、村人の声を生で聞くという草の根の支援がどれだけ大切かがわかりました。そして、日本人にもネパールの奥地でこんなおじさんがいるんだなということがわかりました。

最初にも書いた通り、村には日本のような便利なものはありません。その分、家事の量も増えます。でも、村人達は家族で協力し合って、小さい子どもでも当然のように家族の為に働いていました。私は、そういう彼達をとっても尊敬します。

キャンプ最後の日、お別れ会でユースの人たちが演奏してくれた曲、私は彼達の行為がとっても嬉しくて、心にジーンとききました。日本に帰国した今、村人の優しさがとっても恋しいです。

BY まみちゃん

10. その他

会計報告

| 収入 | | 支出 | |
|----------|----------|-------|----------|
| 勘定科目 | 残高 | 勘定科目 | 残高 |
| 参加費 | ¥506,000 | キャンプ費 | ¥578,100 |
| フリーマーケット | | 日本食 | |
| カヌスの会 | ¥105,842 | 材料費 | ¥7,204 |
| (カンパ等) | | FIWC | |
| カレプロ | ¥50,000 | 年会費 | ¥48,000 |
| | | 雑費 | ¥27,542 |
| 合計 | ¥661,842 | 合計 | ¥660,846 |

※参加費 ¥31、625×16（人）

※交通費（航空券代）はキャンパー各々で異なり別途とします。

※ファンド

キャンプを行うことができなかった2005～2006年には、カンパ等において¥327,000が集まりました。そのうち¥27,000をファンドとして村に提供し残りの¥300,000を次回以降のキャンプで使いたいと考えています。

反省会

ワークが始まればまとまって行動できた。しかし募集の遅さやミーティングの少なさを考慮に入れても、やはり全体のことはリーダーのヤスに頼ることが多かったことは事実。リーダー以外でもキャンプ全体の流れを知ることが必要だと思った。レクにおいては事前に集まって練習していれば、もっと日本の文化といえるものを紹介できたと思う。

そして何より、体調管理に気をつけなくてはならない。病欠者が多かった今回から、ワークの基本はあくまで健康維持ということを痛感した。次回はキャンプをやり抜くことが目標かな。

カンパ

今回のキャンプによせてたくさんの方々からカンパをいただきました。キャンプ決行の延期のため、フリマ等で集めた資金を含めかなりの額となりました。是非、これからのキャンプに生かしていきたいと思えます。みなさんありがとうございました！

モグネット <http://www.mognet.org/>

☆ F I W C の情報配信中 ☆

編集後記

ネパリータイムを忘れ、再び日本のリズム戻され編集に追われた日々。ネパールが恋しいと思いつつ、皆が作った文章を読んでいると、キャンプ中に自分の知らないところで皆こんなことを考えていたのか！？って驚かされました。またキャンプ中の写真を加工したり、選別している時も昨日のこのようにキャンプを思い出していました。

キャンプテーマが「ランギチャンギ」というだけあって個性豊かなメンバーが揃い、バラバラな個性ですがリーダーのヤスさんを中心に良くまとまっていたように思います。

そんな中僕はどんな風に映っていたのかな？ついキャンプ中の編集作業はキャンプ中に気づかなかった事が誰よりも早く感じられるもので、僕はちょっとトクした気分です。ん？次回も編集やるかって？もちろん・・・1回で十分かな。

こんな自分を最後まで助けてくれたみんな、どうもありがとうございました。

F I W C 関東委員会 ネパールキャンプ

編集担当：小関・鈴木・近原、吉田

